

先日はお忙しい中、原爆の講演をして
くださり、ありがとうございました。子どもたち
の心にも届くものがあつたのか、講演後、皆、夢
中でえんぴつを走らせていました。子どもたちの感想
文をお送りいたします。

池田様

大宮小六年担任

戦争についての感想

田中 理也

5時間目に戦争について池田さんから話を聞いた時

最初はたいくつだな^よと思っただけで、だんだん戦争の事が分かってきてあらためて戦争が怖いなと思いました。

広島原爆が太陽の表面温度より高かったのがすごいと思った。すごい原爆を作るには原爆を爆はつさせて

作るという事が知らなくておどろきました。今も昔

みたいに戦争がおこったら逃げきれなくて死ぬと思いま

す。原爆のせいで人間の皮がはげたり、肌が焼けて

ものすごく痛いのかな^よと思いました。もし僕が皮が

はがれたり肌が焼けまくってたら痛みにあえられ

ずすぐ気絶すると思います。今は昔みたいに戦争

だらけじゃないから嬉しいです。戦争は昔にあって

はおきてないから関係ないや^よと思っただけで

戦争の話しを聞いたら関係あるのかな^よと思いました。

戦争をやった時に人がいっぱい死んだみたいだ。た

から恐くなりました。原爆は爆はつするはくいがでかい

しものすごい高温だから僕は戦争が二度とおきて

ほしくないな^よと思いました。

威相
心 心

田中 龍士

ぼくは戦争を体験してない(ので)最初
恐いのだろうなと軽くしか受け止めて
いませんでした。けれどまじまじに聞いて
みたら、目の前に光景がうかぶような生々し
さでした。とくに死体をもちあげてかつぐ
ときなどは、気持ちが悪くなるようでした。
そのほかにもおどろきもいっぱいありました。
例えば原爆でじっさいに燃えたウラン
の量は、800kgということにすごいおどろ
きました。たった800kgのウランで24万人以上
の人が死んでしまうなんて人間の科学の発展
はすごいなと思うと同時にものすごく恐い
このなんだとも思いました。広島に原爆が
おとされたばかりでも恐しいのに長崎にまで
おとされたら日本が無条件降服するのを
おそれるんじゃないかと思ひました。原爆病もおそろ
しいと思ひました。ぼくは、この授業は、
ものすごくいい体験だと思ひました。この世界
に戦争をなくしてほしいと思ひます。

戦争

中村 拓磨

ぼくは戦争がとても大変だということとは前から知っていた。でも池田さんの話を聞いて、戦争が原爆がいかにさんこくだったということを知り、深く思った。実際に戦争を体験した方の文章を聞くことにより、原爆がおちた時の様子が生々しく伝わってきた。負の遺産とされて原爆ドムがあるけれど、大きな被害をうけた広島や長崎全体に目をあけるべきだと思う。今、日本は戦争をしないという面で平和だけれど、原爆の後遺症で苦しんでいる人たちはたくさんいるので、その人たちを助けてほしい。また原爆をおとされた唯一の国として世界中に戦争はしてはいけないとアピールし、平和な国を増やしていくのが日本の役割だと思う。これからは戦争のひどさを体験した人はどんどん減っていき、ぼくたちが後世へ伝えていかなければならないと感じた。そしてもう二度と戦争をおこしてはいけないと思った。

戦争体験者の話の感想

若山友樹

ぼくは戦争でなにがあつたかはおばあちゃんなどの話でまゝ聞いていま
した。たからぼくはだいたいのこと分して、いふと思つてしまつて
いふ話をきいてきんならずにいふはつたつたのかとあらためてわか
りました。想像して想像としてもおそろしいとてきつてたことか
聞いているだけでわかつました。何だか人がないよりにみえたこ
ととしてもおそろしいと思ひました。ぼくは一番うじ虫がどうどうおと
ちやうどおとちやうどおとちやうどおとちやうどおとちやうどおとちやうど
よく聞くだけが見たことがありませんでした。家にしつゝいふとして
も持ちうる人なのが死んだ人たまたまさういふ人な想像するだけ
でいふとしてしまひます。それにいふ人にもいふ人な
としておそろしいです。ぼくは戦争にどうしたことはなにかさう
きつていふかなければいふとしておそろしいものだつたことかきい
るだけでわかつました。24万人の命がこつてきつて死人
がしまふ人なぼくには想像もつません。
ぼくは昔のいふことかまづいふことは現在のいふ
でまたこのような戦争があつた、まゝで日本がなくなつて
しまふ人なないかつていふがします。伊集はこの話をきいて
ていふも広島におとされた原爆が大きいといふか
いふことかあらためてわかつたよ、たつた。

1121302

戦争体験の手記

五嶋 友輔

ぼくは、戦争や原爆について、ほとんど知りませんでした。
長崎と広島におとされたくらいしか知りませんでした。今の時代
日本は戦争をしていないので、分からないけど多くの人が厭いで
したことは、分りました。原爆というのは火薬や、いろいろな物
の粉を混ぜて、ゴルフボールくらいの「ラン」っていう物を使い、1つで
何万人もの死者が出るなんて聞いて、とてもこわくなりました。池田
さんのお父さんが体験した、広島原爆と教科書などにのっている
写真がぜんぜん違う、おとろまの。人の死体を焼いたり、助けるとき
皮がはがれたりするなんて、ぼくは、たまたま気がくる、ではかたまりと思っ
た。山づみに、木の下で死ぬのが、死なずに済んだのは、かたまりだ
わ。一度も、命令に逆らうなんて、言うてきないと思っりました。国は
原爆が落とされる前に、戦争をやめて、話し合おう、こんなことはおきな
かたまりだと思っりました。戦争が終わり、お一度、広島に行きた。池田
さんの「死なないで」という言葉は、原爆を体験した池田さんが、かたまり
ことで、ぼくは、死なないで、生き残って、言ったいと思っりました。こたまり
先、何十年、何百年、戦争があると思っります。でも、いつか戦争をなくして
平和な暮らしをする世の中になると、いいなと思っりました。池田さんの
話を聞いて、とても、気が強くなりました。いつか、子供が出来た
ら、話してあげようと思っりました。

単戈争体験

長岡寛佑

単戈争のことは本などで見たことが「あるけど」
話で聞くとちがうところもありました。ぼくの見た
本では、人が「やけたた」けで話では「さむこく桂」
で「はたか」は「か」あ「る」ことを書いてやっは「ソ」本と
はちがって「すごく」たい「へん」だったってことがわ
かりました。ぼくは、単戈争のこと「なん」て「ま」っ
く「し」ら「な」か「っ」た「は」れ「ど」仲間の人も死んで「い」って
「す」ごく「こ」お「い」し「か」な「し」か「っ」た「と」思「い」ま「す」。今「単」戈
争が「お」き「た」ら「ぼ」く「た」ち「は」ど「う」す「れ」ば「い」い「の」
か「わ」か「り」ま「せ」ん。た「の」で「も」う「単」戈争「なん」て
お「き」な「し」で「ほ」し「し」原「火」暴「が」お「ち」た「ら」も「う」た
い「へん」な「の」で「こ」れ「か」ら「も」も「ず」っ「と」平「和」な
目「で」し「て」ほ「し」し「い」で「す」。単「戈」争「の」ほ「か」に「も」じ
ん「が」お「ま」て「も」安「全」で「平」和「で」し「て」ほ「し」し「い」で
す。単「戈」争「なん」で「お」ま「せ」い「の」人「が」死「ん」で
い「く」の「は」も「う」し「や」な「の」で「単」戈争「が」お「こ」ら「な」
な「っ」て「ほ」ん「と」に「ち」か「っ」た「で」す。

戦争に
ついて

加藤 暎子

原爆についての話を聞いて、人の命は、すごく尊いものなんだと感じました。

私はもちろん、戦争などない時代の日本に生きてきたので、戦争がどんなに、

こわく、おそろしいのかも知りません。ですが、今回の池田さんの話も授業で学んだ

ことを考えてみると、すべからず、残酷な情景がうかびます。

今回の話を聞いて、戦争、原爆などというものは、あってはならないものなんだということを

改めて実感しました。たった一つの原爆で、何百万人という人の命がなくなることは、

悲しいという言葉だけでは表もようがないと思います。

原爆ドームは行ったことがないけど、行ったら、きっと重苦しい気持ち

が、おぼせてくるのではないかと覚えています。話の中で、実際の

被爆者を再現した人形のことを覚えました。その人形のことをきくと、

と言われたのは、おかしな話だと思えます。たぶん、原爆の被害は、そんな簡単に

人形で現あせないと思います。

私達ができることは、池田さんのように後世の人に原爆や戦争の話を、

語り継ぐことだと思います。今回のような話は、日本人の心の中から、

絶対に失われてはいけなことを、覚えています。

池田さんも、たくさんの人に、原爆、戦争のおそろしさを伝えていって

下さい。

原子力爆弾

並木仁志

広島に1945年8月6日に原子力爆弾が落とされたときから、数日間の日記を聞き、一番おどろいたのは、原子力爆弾の中心温度でした。100万度近くあるそうです。広島に落とされたのは、長崎よりも小さい原子力爆弾だけど、広島が「平野だから山などが多くある」とある長崎よりも、被害が大きかったそうです。広島にいた人たちは、皮膚がとけ、めくれ落ちていて、肉などが見え、手をななめ前にして、右往左往している人たちの助けようと、トラックの荷台にのけようとする時、手などがはね、骨などが見えるなど大変そうでした。死体を運んで、それを、さらに焼却するのを、何日も、続けました。思い出しました。戦争が終ったのは、1945年8月15日でした。ぼくは、このころに生まなくて、よかったです。学校の授業でもこれからやるので、この話しを聞くことができたようです。

原爆の話の感想

東海林 匠

5時間目に池田の話を読み、広島
原爆はすごいものだったなと思った。
あといろいろのことをした。たった一つの爆
弾で何人も人が死んだことは、くわくわくと
思った。池田さんのお父さんは、どうして命
が助かるなんていうか、いいなと思った。
でも、原爆の後には、たいていいろいろな作業だ
と思った。戦争のあとは後遺症ですごく
苦しんだらうなと思った。でも原爆のあと
に目撃した人から手紙がきたときはうれし
かったらうと思った。話の後半には原爆の
中心温度や表面温度、原爆がおちたし
周辺の温度などをかいてもらった。
一番びっくりしたのは原爆がおちた周辺の温
度だった。周辺の温度は約3000℃くらいにた
いで鉄がとける温度約1200℃で人間は11、12
で死んでしまうんだなと思った。こんなことか
ら二度おこらないように戦争はやめてほしい
なと思った。

戦争に
ついて

加藤 暁子

原爆についての話を聞いて、人の命は、すごく尊いものなんだと感じました。

私はもちろん、戦争のない時代の日本に生かされてきたので、戦争がどんなに、

こわく、おそろしいものかを知りません。ですが、今回の池田さんの話や授業で学んだ

ことを考えてみると、すば、残酷な情景がうかびます。

今回の話を聞いて、戦争、原爆などというものは、あてはまらないものなんだということ

を改めて実感しました。たった一つの原爆で、何百万人という人の命がなくなることは、

悲しいという言葉だけでは表おほうがなと思います。

原爆ドームは行ったことがないけど、行ったら、きっと重苦しい気持ち

がおよせてくるのではないかと思っています。話の中で、実際の

被爆者を再現した人形のことかできました。その人形のことをきかれすぎる、

と言われたのは、おかしな感じがします。たぶん、原爆の被害は、そんな簡単に

人形で現あせないと思っています。

私達ができることは、池田さんのように、後世の人に原爆や戦争の話を、

語り継ぐことかと思っています。今回のような話は、日本人の心の中から、

絶対に失おれてはいけないことかと思っています。

池田さん、たくさんの人に、原爆、戦争のおそろしさを伝えていって

下さい。

原爆の日

米：斎ひかり

私は、原爆の日のことをあまり知らなかつたので、いい勉強になりました。少しのことは知っていました。原爆が落ちた場所に近づくにつれ、笹子の大きさをしり、もう大きくなることはないかと思いました。いけさんが率いる、利根の人達は、すごい勇気があったかと思いました。全体がとけている人をトラックにのせようとして助けようとするのが、すごいと思いました。私がその場にいたら助けられなかったかと思いました。原爆で死んでしまつた人を背負つて山をみにし、カリリンで焼くのは、ほんのくだけたけいやらなけいばならぬに、それが、おさんでした。800gのウランを使った原爆だけで、24万人の人口がなくなつていくことは、すごく悲しかったのです。原爆を使った国が、にくたらしくたまはせんでした。原爆を落とす軍隊が原爆のスイッチをOFFにするのか、いけならからなけいばいいのに、原爆なんとなけいばよかつたのに、と、さうと思つていました。俺の罪業ないんが、さうして原爆で死んだら、苦しんだら、なけいばならぬのか、くだけい、おして、おんに、思つていました。

原爆

高橋 沙知

私は、戦争についてぜんぜん知りませんでした。
でもとても激しく、危険だということは知っていました。
なので池田さんから広島島の原爆について話
してもらった時、とてもびっくりして、自分が思っていた
ことと、ぜんぜんちがいました。

(例えば、人が丸こけになっていたり、あまりの暑さに
川にとびこんでいた人(また、おけにはいっている人)、
皮がはげしま、ている人など)池田さんの話から
すかきさん、くさくさなところだと思いました。

そして、一番ひどいのは、何も関係がないのに
家族の人が死んでしまったのが、一番いせがなと
思いました。

また、死んでいる人のみもとも確認しないで焼いて
しまったのが山みないなからいいると聞いていせがなと
思いました。

そして、原爆があったところは、空け地もないに何にもな
いことから原爆がはげしかったことが分かりました。
池田さん、今日は原爆のことをいろいろと教えて下さり
ありがとうございました。とても勉強になりました。

戦争の原爆

橋本健吾

ぼくは戦争のことについて少ししかわかってま
せんでした。国の土地や石油、石炭など

いろいろな物を取ったりして人を殺し合
うなんて、今は考えられませんでした。

今はテレビを見たりスポーツをしたりと自分のやりたい
ことをやったりしているのに、少し前までは赤紙が
来て行けば死んでしまうかもしれないし、行
かなければ「非国民」と言われるしとてもいや
な事だったと思います。

原爆で24万人ぐらいの人が死んでしま
い、生きていても原爆病などという病気になら
されて、しかも遺骨で後世の子孫にも被害
がおよぶのとても恐い武器だと思いました。
広島と長崎に原爆が落とされたから無条件に
降参するのなら落とす前に降参すればよかったと思
いました。

戦争の話の感想

高橋 静香

私は、二人をにくく戦争の話を知ったのは初めてでした。池田さんは、その時の歩いている様子や状態などを色々話してくれました。広島に原爆が落ちた時、原爆の温度は中が1000000度もあるなんて、すごいと思いました。広島に落ちた時は、あたりは、何もないなんて、この言いがちかと思いましたが、人の皮がはがれて中の肉が見えるなんて、とても、こわいと思いました。皮がはがれてしまった人は、痛いなんてものじゃないと思います。それは、実際に体験した人じゃないと、分からないと思います。私も、今、居たいと思いましたが、池田さんが、原爆の被害模型は、あまりにも残酷だ、と、私は、思いました。でも、それは、実際に体験した人が、じゃないと、全然、分からない人じゃないか、と思います。私は、戦争の時代に生まれてよかったと思いましたが、でも、この戦争の話を知ってよかったと思います。それは、聞かないと、戦争の、こわさが、分からないからです。今、日本では、戦争がないけれど、他の国では、あるのもう、戦争がなく、それは、いいと思いましたが、

原爆について

片山 優香

先日は、戦争体験のお話を、お話しいただき、誠にありがとうございました。
「戦争」というものを経験したことがない私は、はじめ「戦争」とは、他国と他国が戦う、そんなことだと思っていました。しかし、先日、お話をうかがって、そんな簡単なことでははなと
実感しました。私の祖父母は戦争を体験してはいますが、子供だったので、そこまで苦痛はわからなかったです。でも、原爆による
とさらはなかなと思える。たとえ、命が助かっても、たとえ、命が助かっても、「救身才能」の「生き残り」があ
ったとしても、その後の生活にも負担がかかりすぎるし、たと
えば、広島に祖母が住んでいて、原爆のおかげで、一瞬間にし
て、死んでしまっても、半年は、死んだかどうかもわからない
ことでしょう。それと、その頃は、原爆なんて、おぞましい
ものは、知らなかったでしょうし、危険なものだと思わなかった
でしょう。また、池田さんのお父さんも、複雑な思いをして
死んでしまったことと存じます。私たちに伝えてくれた
って原爆のお話を、後世に伝えていくために、
私も原爆のことについての知識を増やしたいと思
っています。先日は、貴重なお話をありがとうございました。
ありがとうございました。

原爆の話に聞いて感想

門間 瑠美

私は何にも知りませんでした。広島、長崎の原爆のこと。

名前だけは聞いたことはありますが、これまで深くは知りません

でした。池田さんのお父さんは、こんな苦しい思いをしたんだと

私は戦争の時代にうまれなくてよか、たと改めて思いました。

爆発で、家が焼けてしまい、おと、は、

すかりあがる、感しく、積み重なっている死体。

池田さんのお父さんは「救いたい。助けたい」という気持ちは

あっても、みたくもないものをみてしまったり、とても残さくだけ

思います。人間に戦争なんて、二度としてほしくないです。

まだ、他の国では戦争をしている国もあると思います。

そんなことはやめてほしいです。そんなことをするよりも、協力

して、お互い協力あえばいいと思います。

そんな日が一日でも早く、みんなが助けられる日が

来るといいです。この池田さんのお父さんの話を聞いて

思いました。家が焼けたばかりで、意識がある。

どんな思いなんだろう。痛い。セリセリする。とても

かおいそうだと思います。あ、たととしてあとかが残ると思います。

きっと、そのあとかは、そのことを忘れない、刻みだめにあるんじゃないかな。

きっとそれは忘れることのない出来事。今、語りだされているということ。

そのことを忘れないで、みんなの死体がだいたいのこと、戦争をしている国に

伝えられればいいと思います。

原爆の話聞いて

大野 愛友実

原爆のおそろしさを知った。一瞬で街を火の海にし、何万人もの命をうばう…。ゴルフボールサイズの原料で、広島と長崎の、多くのものをうばっていた原爆は、本当に危険で、あてはならないものだと感じた。池田さんのお父さんが見た、街は、今の日本では（言じられないようなものだったのだろうし、生きる気を失わせるようなものだったのだろう、と思った。皮ふをだらりと下げ、よるよると動きまわる、真、黒にな。た人に、なにもしてあげられないのは、とてもつらかったと思う。トラックにのろうと、必死な人をどうすることもできない、皮ふの痛みも、直してあげることができない。目の前で苦しんでいる人がいるのに、救うことができない…。私たちにはその苦しみは分からないけれど、ただただ、ぼんやりとうかぶ、その様子にゾッとしていた。これからの世界に、原爆があてはならない。兵器も、戦争をするという考えも、必要ないはずだと思った。もうすぐ戦争体験者が日本にいなくなる日がくるだろう。しかし、私たちは戦争のおそろしさ、戦争のおろかさを伝えていかなければならないと思う。

広島原爆の話の感想

長船 友和

私は5時間目の話を聞きて一番心に残ったところは池田さんたちが聞いた原爆ドームでお父さんが人形を見て「きれいすぎる。」といったところです。

私は一回原爆ドームに行ったことがあり、私もその人形を見ました。見た時はすごくかわいそうだなと思うなかで見えていました。でも、本当はそれ以上に残酷だったんだなとすごくわらわりました。池田さんの話はどれも残酷だったので途中からあまりしゅくに聞くことができませんでした。でも私がその場にいたら、あまりの残酷さにたまげきれないと思います。全身がやけどなんて絶対に体験したくないけれど、その中で何かに生きようとした人たちの気持ちがよくわかります。原爆をおとそうと考えた国の人達のことからゆるせないと思います。それなりの理由があったとしても（それなりの理由）、2回も日本におとすなんて、絶対にゆるせないです。おとすのに天候がよか、それからおとすのはすごくゆるせなくて、その日か日本の全部が雨が降ったからよか、たのどと思っていました。もうこんなかなしいことがおきないように戦争なんてどの国でも絶対にしないであらうと思います。これから日本が平和な国であってほしいなと思います。

源爆と戦争について

陣内星香

昨日と時間日に源爆などのことについて池田さんが話してくれました。私は戦争などは体験したことないけれど、なんとなく話を聞いていくなりにおかてきました。

戦争や源爆は、こんなにも難しいことかおかりました。池田さんが話してくれた中で一番心にのこった話は「人がやけなからそ、たすけをもとめて、歩いて」と聞いてとてもいいました。たすけです。

池田さんのお父さんが戦争に体験してとても、たい人だ、たなと思います。私は戦争の時代に生まれなくてよかったです。

昔、広島がこんなにもたい人だ、たんだ」と思うととてもいい勉強にな、たと思います。

私にとって戦争のことさりがするのは難しいけれど、これからは平和な世界を作りたいと思います。

私は池田さんが最後に読んだ「手紙は、今でも」にのこ、ています。

池田さん戦争や源爆のことについて話してくれて、ありがとさいます。これからはかんは、てくださいます。

広島原爆

松岡 栗

私が一番怖いと感じたことは、原爆を落とす人がOFFにする時に怖いと思っていることです。なぜなら落とす人が怖いのなら、やめてしまえばいいのに、命に逆らえなくなっているからです。私は軍のトップの人々が他の人々をロボットのようにあやつってしまふことに恐怖を感じました。そして、休けい時間中に、原爆ドームに行ったことのある友達に話を聞くと、「赤ちゃんをおぶった人や三輪車に乗った男の子とかもいたのに、みんな死んでしまったよ...」と言っていました。また、人が生きている、ということは何よりも幸せなこと、と深く感じました。とくに、死人を焼いては「かりい」て、もう冷たくなつた人ばかりおぶっていたところでの人の助け、温かな人をおぶつたという話の時に感じました。話を聞いたた「けでこれほどの恐怖を感じたということは、原爆の落ちたところにいる人々は、もっと怖か、た「るう」と思いました。

もう二度と広島や長崎のような悲劇が起きないように、そして戦争が起きないようにしてほしいです。

〈広島原爆〉(ヒロシマの惨劇
を聞いて)

阿木愛美

私は、広島原爆のことは知っていました。しかし、
人におそろしいといふとは、この話を聞いて
感じました。私は、池田さんのお父さんが体験し
たお話は、体験していない私達まで体験した
ような感じがしました。「私達のすんでいる日本に
どうして原爆を落とすの？」と問本は原爆を落
とした人に聞きたくなりました。原爆で広島
の半分の人達はなくなっているのに、何もしな
いに害をおよぼすのは「ひどいなあ」と思いま
した。長崎に落ちたときはあまり被害がな
かったため、「広島よりは大丈夫だたんた」な
と思いました。広島におちた日から九日、長崎に
おちたときから六日に日本は負けをみとめたの
でよかったです。もし、ここで日本が負けをみとめ
なければ、きっと他の都道府県にも害がおよぼ
していたのかもしれないと思いました。でも、ま
り、原爆をおとさぬで、とくなく、た広島、長崎の人々
ちは、とて、も、か、ゆ、い、そ、う、で、し、た、な、ぜ、な、ら、な
い、も、し、て、い、な、い、た、だ、て、い、た、か、も、し、れ、な、い、か
ら、で、す、な、れ、か、ら、二、度、と、こ、ん、な、こ、と、か、い、と
いいな」と思いました。

戦争についての感想

金子二千

私は戦争のお話を聞いた時、最初は、原爆の話だけだと思っていたけど、いろいろ戦争のこまかいことを教えてくれました。実際に体験していなくても、戦争のようすが想像できるくらいでした。原爆が降下されてからの九日目、すごく大変だったことがよくわかりました。池田さんがたくさんのお骨をかっいで、もやしに行く時は、すごくきもちわるか、ただろうなと思いました。背中にまるこげの死体があるだけで、きもちわるくなるのに、それをつみかさねてもやすという、ざんこくな事を続けて、軍の命令は、ぜったいなんだと思いました。すごいとも思いました。た、た九日目だけど、いろんなつらさを体験したんだなと思いました。足をけがした女の方は、池田さんたちが旦那けてあげなければ、大変なことになっていたと思います。そして今では手紙のやりとりをしているのは、あてきたなと思いました。私が池田さんのような軍に入って、遺体をもよせて言われたら、ぜったいにやりません。だから、いろいろことができた池田さんはつよいと思いました。やっぱり戦争はこわいと思います。たくさんの方が苦しめながら死んでいくだけだし、戦争がおあって、人の心にきずがうくだけだと思いました。二度とこんなことがおこらないでほしいです。

原子力爆弾

6-2

鎌田

秀彦

池田さんのお父さんが実際に体験した原子力爆弾の威力は、とてもすごかったです。たどたどりました。ぼくは、「広島のコカ」や、「はだしの元」などの本を見て原爆の恐ろしさをしりました。たった800gのウランで太陽の約170倍の熱が出て、人が蒸発するなんてぼくは考えられません。その後、放射能による苦しみながら死んでいく人はとてもかわいそうでした。焼けこがれて全身が黒く、黒い汗、たんや、皮膚がとけて、右往左往しながら歩いてくる人達の姿は、目に焼きついては忘れられないと思います。現在日本では、一応戦争はしないと憲法で決まっていますが、実際戦争なんていつおきるかわかりません。もしもおこってしまえば、たときは、両国の首相が相談してすみやかに戦争をおわらせなければいけません。でも、本当は戦争なんておこらなければいけません。ぼくは心から願っています。

戦争体験の話

岡 健太郎

先日、戦争の話をしてくれてありがとうございました。
池田さんのお父さんはトラックが来るのがおそくて大きなか
が広島のおよそかいせんですごく運がよかたですわ
原火暴にあつた人を助けるのはすごくかあいそりでした。
原火暴は800mなのに川をいっしょんで熱湯でやけどが
こけるくらいになつたのはすごく危険だかと思
いました。ほんとに原火暴が800mで広島を黒くけ
にするほどの強さがわかりました。原火暴でたけ
るとき皮がっつるとおけて転がってしまうのはすごくか
あいそりでした。原火暴にあつた人は手を上に上げて
あるいて来るのは何ぞをやって歩いてくるのかわ
かりました。足をけがした女の人はずごく痛そりでした
足がうんで骨までみえたのはそろそろ痛そりでした。
たけど池田さんのお父さんがいっしょけんめいさりを
してなおつたのはよかたなと思いました。
池田さんの話はほんじつにつつそりでした。
原火暴の話をしてくれてありがとうございました。